

「優れたランドスケープと熊野古道」

熊野灘に面したヒノキ林

当地域は、三重県内でも有数の剣山である大台山系（標高1000～1400m）から急激に高度を下げて、海岸部の熊野灘（太平洋）に至ります。

この山岳地帯から海岸部までの距離は10～15km程度であり、斜面傾斜が非常に大きく、海岸部から急斜面の山頂に至るまで見事にヒノキが植えられた景観は全国的にも珍しく、優れたランドスケープを形成しています。



熊野灘に面したヒノキ林



ヒノキ林に囲まれた石畳（馬越峠）

世界遺産 「熊野古道」とのつながり

「熊野古道」の沿線に展開される森林景観は、これまでの林業生産活動と関連性を保ちつつ、進化・形成されてきた文化的景観として、高い評価を受けています。

約390年にわたり引き継がれてきた人々の森林に対する営みは、熊野古道の石畳の両側に林立する荘厳なヒノキ林等の地域固有のランドスケープを形成しており、景観としてだけでなく、歴史的にも重要な地域資源となっています。

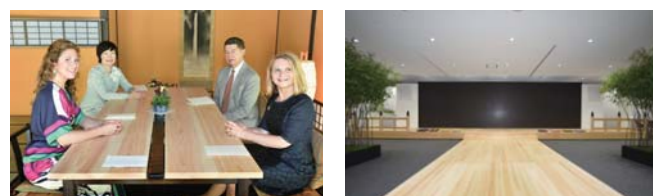
「尾鷲ヒノキ林業の新たな展開」

G7 伊勢志摩サミット

これまで、当地域では主に建築用の柱を中心に生産してきましたが、近年の住宅着工戸数の減少や少子高齢化を背景として新たな需要開拓を進めています。

その一環として、2016年に三重県志摩市で行われた「G7 伊勢志摩サミット」では、首脳会議用円卓、国際メディアセンター檜舞台等の様々な場所に、「尾鷲ヒノキ」が利用され、丁寧に人の手を加え育てられた木目の美しさは、海外からも高い評価を受けました。

©2016 MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS OF JAPAN



急峻な地形と
日本有数の多雨が生み出す
尾鷲ヒノキ林業

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems

三重県
尾鷲市・紀北町

◎ 森林管理と木材に関するお問い合わせ 発行：尾鷲林政推進協議会

◆森林組合おわせ（尾鷲林政推進協議会事務局）
〒519-3408 三重県北牟婁郡紀北町便ノ山200
TEL /0597-32-0275 FAX /0597-33-0028

◆尾鷲市水産農林課
〒519-3696 三重県尾鷲市中央町10-43
TEL /0597-23-8224 FAX /0597-23-8303

◆紀北町農林水産課
〒519-3292 三重県北牟婁郡紀北町東長島769-1
TEL /0597-46-3116 FAX /0597-47-5905

歴史と伝統を有する「尾鷲ヒノキ」林業 owase hinoki

日本農業遺産認定のポイント

「林業活動がもたらす生物多様性」



ヒノキ林

その価値とは…

三重県尾鷲市・紀北町は大台山系に連なる急峻な山岳地帯であるため、稲作に向かず古くから林業が発達し、1630年前後には人工造林が始まりました。

また、年平均3800mmを超える多雨地域で、かつ痩せ地が多いという自然条件に適したヒノキの植林が寛永年間(1850年)以降盛んになり、現在では人工林の9割をヒノキが占める全国でも例のないヒノキ造林地帯を形成しています。

当地域では、痩せ地で生長が遅いという不利な条件を逆手に取り、苗木を密植し間伐を繰り返すことで、高品質なヒノキを生産するとともに、古くから森と海とのつながりを意識し、生物多様性にも配慮した森林管理が行われてきました。

また、ヒノキ林は、リアス式海岸に面した急斜面や世界遺産「熊野古道」沿線に広がり、地域固有の景観を成しています。

こうした地域独自の伝統的な林業が営まれてきたことが評価され平成29年3月、日本農業遺産に認定されました。



定置網による鱈漁



魚つき保安林



牡蠣の養殖で使用される尾鷲ヒノキ



アオリイカの産卵



植林体験

責任ある森林経営を実践することで生物多様性にも配慮している

当地域は日本で初めてFSC®(Forest Stewardship Council®、森林管理協議会)の森林認証を取得した地域であり、林床の光環境に配慮した森林管理を行うことで、常緑広葉樹の天然林より多い植物種が人工林で確認されるなど、優良材生産の林業先進地としてだけでなく、環境や生物多様性にも配慮した責任ある森林経営を推進する先進地域でもあります。



責任ある森林管理のマーク

森を守ることは海を守ること

当地域の沿岸部には重要な漁場が存在し、そのような場所の海岸部では、人工造林の対象地とはせず、森林が保護され、現在では魚つき保安林に指定されています。森と海とのつながりを過去の経験から認識し、植林が盛んに行われた時期にも、あえて魚つき林として保護してきたことが、生物多様性の維持や当地域の豊かな漁業資源の保全・持続に大きく貢献しています。

また、小学校等と連携し、生物多様性の教育の一環として間伐材を海底に設置し、アオリイカの産卵床とする取組なども進められています。

日本農業遺産認定のポイント

「強く美しいヒノキの育林システム」

尾鷲ヒノキ林業発展の歴史

当地域は平地が極めて少なく、耕地面積は全体の1%程度と農用地の確保が難しい一方、「紀の国」またの名を「木の国」と呼ばれ、森林に恵まれていました。このため、1600年代半ばから植林・育林を行う循環型林業が始まり、発達した海運業を背景に、京・大阪、江戸等の大都市への荷物輸送が容易であったことが林業の発展に大きく寄与しました。

確立された高品質材の育林体系

本格的な人工林施業が始まって以降、試行錯誤を繰り返しながら、一般的なヒノキの植栽本数の倍以上、6千本~1万本/haの密植を行い、枝打ち技術を駆使し、無節や上小節といった良質な心持ち柱材を生産してきました。近年では、林床の光環境に配慮して、間伐率を高くし下層植生の侵入・生育を促す管理を行い、林地土壌の保全を行いつつ、木材生産を行う環境の保全に配慮した施業も行われています。



間伐風景



枝打ち



植林

日本農業遺産認定のポイント

「ヒノキを活かす技と知恵」

ヒノキの価値を高める技術の発展

当地域は、地形が急峻で雨が多いため、路網による搬出は災害のリスクやコストが高くなることから、必然的に架線集材の技術が発達しました。また、架線集材により丸太を長尺のまま搬出することで、市場の動向に応じて採材長さを変えることが可能となり、収益性の面でも大きなメリットがありました。

丸太の個性を見抜く匠の技

尾鷲ヒノキの持つ、年輪が緻密で油脂分に富み、強く美しいという特徴を最大限に生かすため、製材事業者が丸太1本1本の品質を見極め、最も価値が高くなるよう丁寧な製材を行う技術が培われてきました。

証明された強さ

三重県立熊野古道センターの建設には、尾鷲ヒノキの柱材が6,549本使用され、その全てについて曲げヤング係数が測定されました。その結果、当地域で産出されるヒノキは、強度性能等の材質面で、優れていることが科学的に証明されています。



緻密な尾鷲ヒノキの年輪



搬出



伐採



尾鷲ヒノキ柱材



製材風景